

本辞典の編集方針と構成

【編集の方針と特色】

■本書は現代における一般の日本語表記に用いられる漢字を対象とした漢和辞典である。また、中学生・高校生の漢字学習はもちろん、熟年層の生涯学習用としても役立つことも目ざして編纂している。

■通常の漢和辞典がいわゆる部首順配列であるために、引きにくい、引くの時間がかかるといふ実態を踏まえ、漢字の読み（音訓）で五十音順に配列し、使用者の便を図ったのが、本書刊行の目的である。

■本書は親字として約六四〇〇字を掲げた。この数は古典から現代までの日本語の表記に用いる、おおかたの漢字を含むことを目ざした結果の数字である。一般社会における読み書きに用いる漢字数としては必要十分なものと考えられる。

■本書は親字に加えて、その異体字を約一六〇〇字掲げている。そのためJISで定められている第一・第二水準の漢字六三五五字のすべてを本書は含んでいる。

■また、本書は二〇一〇年一月に告示された新しい「常用漢字表」の内容を全面的に採用している。

■熟語には現代日本語にとって重要な熟語およそ二万四〇〇

〇語を収録した。その中には、漢文学習や漢籍への興味をつなぐ大切な役割を果たす故事成語および四字熟語を数多く掲載した。

■親字の字義解説は、中国古典に現れる字義を基礎にしながらも、一方で日本語での用法・造語力に着目した字義を適切に提供することを心がけた。

■今回の第二版では、漢字の「筆順」と「なりたち」の欄を新設し、漢字のなりたちへの理解をより深められるように工夫した。

■熟語の語義解説は、現代日本語としての意味記述を中心とすることに意を用いるとともに、中国古典に起源をもつ熟語については出典を明記し、その言葉の歴史的な背景をも解説した。また、近代以降日本や中国で新たに作られたり、中国古典の意味から転じて用いられたりした熟語についても、初出の典籍を明記した。

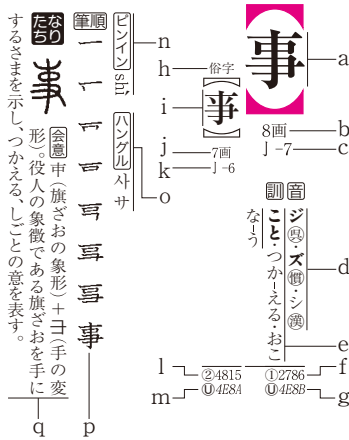
■漢字の代表音訓がわからない場合を考慮して、「音訓索引」「部首索引」「総画索引」の三索引を収録した。音訓がわからない場合でも、総画数や部首を手がかりに漢字を検索できるようにした。

【親字の掲げ方について】

【】で囲まれて大きなポイントで組まれている一字の漢字を「親字」という。親字を囲っている括弧の【】が赤刷りのものは常用漢字、薄いアミがかかっている灰色のものは人名用漢

字、黒刷りのものはそれ以外の漢字であることを表している。親字は代表音訓を表す三行どりの音訓タイトルのもとに、同じ音訓の親字を掲げた。配列の規則は「親字について」の「五」を参照されたい。

親字見出しの基本的な構成は左の通りである。



- a…親字
- b…総画数
- c…部首と部首内画数
- d…音
- e…訓
- f…JIS区点コード (X-0208 および X-0213 による。けたの数字の先頭にある①②③④の丸数字はそれぞれJISの第一・第二・第三・第四水準の漢字であることを表している)

g…ユニコード
 h…異体字の種類
 i…異体字(『』で囲まれている)
 j…(異体字の)総画数
 k…(異体字の)部首と部首内画数
 l…(異体字の)JIS区点コード
 m…(異体字の)ユニコード
 n…ピンイン(現代中国語音)
 o…ハンゲル(韓国語表記)
 p…筆順(漢字の筆順)
 q…なりたち(漢字のなりたち)

「親字について」
 「二」親字の種類
 親字の種類は、左記に示すようにそれをくるむ括弧で区別している。

常用漢字
 ……人名用漢字
 ……それ以外の漢字
 ……異体字

【二】音訓

(1) 親字の読み方は、**音訓**のマークの下にそれぞれ音は片仮名、訓は平仮名で示した。







(2) 漢字音の種類を次のような記号で区別した。

㊦：慣用音 ㊧：漢音 ㊨：吳音 ㊩：唐宋音

(3) いわゆる伝統的な字音仮名遣いを()内に示した。また、その字音仮名遣いとは別に、平安時代に行われた字音を、字音資料に基づいて「」内に示した(左記の例を参照されたい)。

(4) 常用漢字表で認められている表内音訓は太字で示した。常用漢字表外の訓のうち、送り仮名があるものはその部分をハイフンで区切った。

【例】

	
3画 一-2	10画 竹-4
 サン(サム)㊦㊩  み・みっ・みっつ	 ショウ(セウ)㊦㊩  わらう・えむ・わらい
①2716 ④4E09	①3048 ④7B11

【三】JISコード・ユニコードについて

親字や異体字のJIS区点コード・ユニコードをそれぞれの漢字欄の最下欄に示した。上段がJIS区点コード、下段がユニコードである。JIS区点コードは四けたの数字の前に第一・第二・第三・第四水準の表示を、それぞれ丸数字の①②③④で示した。ユニコードの先頭には①のマークを付けた。JIS

コード・ユニコードを持たない場合はダッシュ()で表した。

【四】異体字

親字の異体字を親字の直後に『』で囲んで掲げた。また異体字の種類をおおよそ左記のような基準によって括弧の上に示した。

旧字…常用漢字・人名用漢字として採用されたいわゆる新字体に対する、旧来の字体。

【例】(亜) 予(豫)

別体字…現代ではほとんど同義に通用するが、字形の異なり
の大きなもの。

【例】(畧) 頤(腮)

本字…「説文解字」の小篆に基づく字体。

【例】(棋) 貌(兒)

古字…「説文解字」の古文・籀文に基づく字体。

【例】(世) 鉄(鋏)

俗字…点画をくずしたり、省略して形の変わった字体。いわゆる「誤字」もこれに含める。

【例】(鬱) 事(事)

【五】親字の配列について

(1) 本書は通常の部首配列による漢和辞典と異なり、親字の最も代表的な音(代表的な音がない場合は訓)の五十音順を第一の配列要素として配列した。音訓のタイトルの音は片

「二一」「意味」について

(1) 親字の意味については**意味**という記号の下に①②③…で分けて示した。音によって意味が分かれる場合、例えば【薬】で言えば①《ガク》…②《ラク》…③《ラク》…④《ゴウ・ギョウ》…などとして読みによって意味を分類した。①②③…をさらに分ける場合は⑦⑧⑨…、さらに下位分類したい場合はa④b④c…を用いた。

(2) 現代日本における言語生活で必要とされる字義を最初に示し、中国古典にしか現れない字義などは後に置くようにした。

(3) 日本語でしか現れない漢字の意味・用法は、記述の先頭に【国】という記号を掲げて、一番最後に置くようにした。

(4) 意味の理解を助けるために、それぞれの字義の末尾に熟語例を掲げた。

(5) 字義解説末尾に、適宜【同】の記号を用いて同じ意味となる漢字を掲げた。

「二二」「訓法」について

漢文訓読上、特殊な読み方をする漢字については**訓法**という記号の下に、その訓読法を明らかにした。

【例】

【幾】

【圖説】⑦「いくはくと読みいくら、いくつ、どれほどなど不定の数量を表す。「幾何」のように「何」「許」などとともに用いられることも多い。○孟子離婁上「來幾日矣(来たばかりか)」「あなたが来られてから何日になりますか」④「ねがう」「こいねがう」「こいねがわくは」

「二三」「難読語」について

当該親字を含む難読語を**難読**という記号の下に掲げた。

「二四」「日中で異なる字義をもつ漢字」について

日本語と中国語での意味用法にはなだしい懸隔がある漢字については、**日中異義**という記号の下にその相違について解説した。

「二五」「人名の読み」について

人名という記号の下に、人の名として用いられることの多い漢字を中心にその読み方を平仮名にまとめた。親字の音訓欄に掲げられている読みと重複する場合には適宜省略した。

「二六」「仮名の字源」について

片仮名・平仮名の字源となっている漢字は、**仮名**という記号の下にその情報を示した。

【例】

【奈】

【仮名】平仮名「な」は「奈」の草体から。片仮名「ナ」は「奈」の初二画から。

と読み、願望の意を表す。単独で用いられるだけでなく、「庶幾」の形で用いられることがある。【圖】孟子公孫丑下「王庶幾改之(王様が改めようか)」「改めて下さい」②「ほとんど」「ちかし」と読み、すんでのことで、ほとんど…し、ほとんど…に近い意を表す。【圖】柳宗元補註「幾死者數矣(ほとほと死にかけて)」「ほとほと死にかけて」

【熟語について】

【一】項目の選定とその種類

熟語は現代の日本における言語生活上重要なものから約二万四〇〇〇語を選定した。掲げ方は二行どりとし、いわゆる熟語項目は【一】で囲み、故事成語・慣用句などの句項目は【一】で囲み、その違いを明示した。

熟語の読みは、その読みが音読みの場合は片仮名、訓読みの場合は平仮名で、熟語の表記をくるむ括弧の下に示した。故事成語・慣用句などの句項目はそれぞれの漢字に平仮名で読みを示した。

【例】

【月極め】つきぎめ

【月末】ゲツマツ

【月満つれば則ち虧かく】すなわ

【二】語釈用例について

語釈は的確かつ簡潔に解説することを心がけた。意味用法の理解を助けるために、適宜用例を付した。

【三】表記欄の記号について

(1)常用漢字表に掲げられている漢字以外の「表外字」、あるいは常用漢字表に掲げられている音訓以外の「表外音訓」は、

それぞれの漢字の右肩に「▼」「▽」の記号を付けた。ただし、一字目にある当該親字相当の漢字については、この記号を付かなかつた。

【例】

【枉駕】オウカ

【下司・下種・下衆】ゲゲ

(2)いわゆる熟字訓については、常用漢字表の付表に掲げられているものは《》、それ以外のものは《》の記号で囲って示した。

【例】

《河岸》シカ

《烏賊》イカ

《乙女》オトメ

《火傷》ヤケ

【四】「別表記」について

当該の熟語と同一の意味を有する表記を、**別表記** という記号の下に示した。

【例】

【画然】カクゼン
別表記 劃然

【五】「注記」について

意味の理解を助けるために、補説的・語誌的な情報を**注記** という記号の下に示した。

〔例〕

〔街、衢〕ガイ 人家や店の並ぶ土地。ちまた。また。
ち。〔注記〕〔衢〕は、みちの意。

〔六〕「出典」について

当該の熟語や故事成語・慣用句が、ある出典を持つている場合はその書名等を「出典」という記号の下に示した。

〔例〕

〔過ぎたるは猶おな及ばざるが如し〕
物事の程度を超えたゆきすぎは不足している

し こと同じようによくないことである。〔出典〕
〔論語先進〕より。

【その他コラム欄・付録について】

〔一〕「異字同訓」欄について

同一の訓を持つ漢字を「異字同訓」というタイトルの下でコラム化をし、書き分けの参考とした。

〔例〕

◆やすい（安・易） ●異字同訓 ●
「安い」は値段が低い。心が穏やかだの意。〔例〕「いま、秋刀魚が安い」「安い買い物だった」「心安からぬ面持ち」

「易い」は容易だ。たやすい。しがちであるの意。〔例〕「言うは易く行はかたし」「お易い御用だ」「わかり易い」「こわれ易い」

〔二〕「日中韓同形異義語」欄について

日本語・中国語・韓国語で、同一の漢字表記を持った語のそれ

ぞれの言語内での意味の相違を「日中同形異義語」「日韓同形異義語」「日中韓同形異義語」のタイトルの下でコラム化し、言語や文化の違いについての理解の参考とした。

〔例〕

日中同形異義語

【一層】①いっそう
①stair

「一層二層、…」というように、本来階層を表すことばだが、日本語では「一層精進する」のように、程度副詞として使われることが多い。しかし、中国語では一貫して建物の階数を表す名詞で、「一層書店の看板を見かければ一階に本屋があるということだ」。

日韓同形異義語

【可憐】①かれん
②カリーオン

日本語の「かれん」は「いじらしく、かわいらしいさまをいうが、韓国語カリーオン」は「かわいそうなこと、哀れなこと、みすばらしい様子」を意味する言葉である。そして、「かれん」がおもに植物の形容に用いられるのに対して、「カリーオン」は人や動物の形容によく使われる。だから「マツチ売りの少女で韓国人にイメージされるのは「カリーオン」である。なお、中国語は韓国語の意味用法に近い。

〔三〕付録について

付録として、「漢字・漢語概説」「部首名一覧表」「宛字外来語 日中宛字対比表」「人名用漢字一覧」「ハンゲルの手引き」「韓国漢字音索引」「ピンイン索引」などを付したので活用されたい。